

第4分科会 事例紹介要旨

発表者：(特)市民シアター・エフ 代表理事 竹石 研二 氏
(特)ちちぶまちづくり工房 副代表理事 木村 和恵 氏

NPOとNPOが地域を越えて“つながった”好事例を、映画と観光という切り口で、2つのNPOから紹介していただきました。

(特)市民シアター・エフ

- ・10年前にまちの中の空き店舗を活用して映画館ができたという思いで、活動を始めた。
- ・商店街の空いたスペースを事務所として借りて活動していたところ、まちの人の映画上映のニーズを聞いた。建物のオーナーと相談したところ、空いている2階を映画館として使用できるようになった。
- ・70席のスペースを確保して「愛染かつら」を上映したところ、一週間で1,150人が来てくれた。参加者からは、歌声が拳がったり、昔の思い出話を咲かせたりと、大変好評であった。
- ・その後地元の深谷市が、中心市街地の活性化策のためのまちづくりの組織を立ち上げたので一緒に参加し、商店街の空き店舗を活用して小さな映画館を始めたいと提案したところ、提案が通り、元銀行の建物を市が借り受ける形で2002年7月に50席(最大80席)の映画館として改装した。現在事務局2人、アルバイト5人体制で活動を行っている。
- ・若い人がビデオで撮った短編の映画を全国から集めて、インディーズフィルムフェスティバルを開催。今年は135作品の応募があった。このイベントからデビューした若い映画監督もいる。
- ・寄居町、秩父市で2ヶ月に1回映画会を開催。市民が自主的に実行委員会をつくり、自分たちで上映作品を企画して実施している。
- ・渋沢栄一氏の映画を作るということで、47名の市民が出資して株式会社を立ち上げ、作家の佐野真一氏の「渋沢家三代」をベースに現在映画監督にシナリオ作りを依頼中。
- ・2006年に県のNPO協働提案推進事業に「コミュニティシネマ普及促進事業」が採択された。以下の3つの事業を実施した。
 1. 羽生市の商店街の活性化策として商店街で映画会を開催。
 2. 秩父の商店街や実行委員会のメンバーと一緒に、秩父ミュージックパークの施設で映画会を上映。
 3. さいたま市のさいたま芸術劇場において、県内にある映画サークル14団体のネットワークづくりを行った。
- ・市民が担い手となった映画文化をまちなかから発信し、それを通していろいろな人達とつながっていくことで、もう一度まちのにぎわいを取り戻して、コミュニティの一つの核としての映画文化が、大型映画館と共存するという活動を行っていきたい。

(特) ちちぶまちづくり工房

- ・いろいろな分野でいろいろな技能を持った人たちが、自分たちの力でまちをつくれるかやってみようということで始めたのが活動のきっかけ。
- ・今年の3月から知知布織女会（ちちぶおりひめかい）という分科会を立ち上げた。秩父というまちを私達が織り上げるという造語。
- ・ちちぶ銘仙は、着物の中でも普段着として着るもの。秩父のまちは、庶民がつくり上げたまちであることもあって、普段着の感覚でのまちづくりを進めている。
- ・須坂市における活動は、10年前の長野県須坂市に銘仙を展示する美術館ができたことがきっかけ。今回は、「大正ロマンとおしゃれ着」という企画で、須坂のまちを30人の織女の会のメンバーが着物姿で練り歩いた。
- ・織女会のモットー
 - つどう、つなぐ 交流しましょう。
 - つむぐ お互いの知恵をつむぎましょう。
 - はぐくむ 子どもたちに日本の着物文化を伝えましょう。
 - 和のテイストとお互いさま
- ・埼玉県内の織物の産地である川越、入間、秩父で将来織物サミットを実現するための準備として、交流を始めた。11月18日の秩父着物散歩あるきのイベントでは、川越の人たちと合同で、着物姿で秩父のまちを散策した。出席者は23名だったが、熱心に見学してくれた。12月9日には、入間でシンポジウムと分科会を開催予定。
- ・東京のNPOの企画運営で、秩父夜祭りを準備するまちの元気な秩父人（びと）たちを案内して、秩父の祭り前の生き生きした様子を体験する1泊のツアーを開催。
- ・まちづくりとして自分たちには何ができるかという視点で、皆で企画を討議しながら活動を進めていきたい。その中で、行政と組めることは行政と組み、民間と組めることは民間と組みながら、自分たちで考え出したツアー等の企画を自ら売り込むことで、もっと秩父のことを理解してもらえればよいと考えている。

第4分科会 意見交換要旨

ファシリテーター：埼玉県NPO懇話会委員

鷲巣 敏之 氏

埼玉県NPO活動促進助成運営委員 渡辺 道代 氏

ファシリテーターの発案で、最初に、参加者全員に参加理由や、“つなぐとはどんなことか”といったコメントを寄せてもらいました。

その後、下記2点について付箋に意見を書いていただき、カテゴリー分けを行ないながら参加者間で意見交換を行いました。

広域でつなぐ必要性・可能性・効果

どうしたらつなぐのか、その方法・戦略・普段心がけておくこと

1 主なコメント要旨

- ・「つなぐ」ためには、このような場に出て様々な方の意見を聞くことが大切だと思う。事例発表のような成功例を地元NPOに積極的に情報提供することも行政が「つなぎ」役となる一例だと思う。
- ・ホームページを立ち上げたが、団体の活動について「何を」「どのように」伝えればよいのが悩んでいる。事例発表を聞いて、まずは団体の想いを大切にして伝えることが重要であり、想いを伝えることも「つなぐ」ことだと思った。
- ・まちづくりに関するNPOに係わっているが、事例発表の方のまちを良くしたいという想いは共通していると感じた。また、まちを訪れる方と「つなぐ」ことは、まちの良さを再発見することにつながることを、事例発表から再認識した。
- ・「つなぐ」ことは、各団体が得意なものを持ち寄るためにも必要だと思う。
- ・団塊世代の地域参画を支援する機関のネットワーク化を検討している。今回のテーマである「つなぐ」を踏まえて進めていきたい。
- ・今回のような場に参加すること自体が「つなぐ」ことになると思う。ただし経験上、本当の意味でつなぐ、成果を上げるのは非常に難しい。今回は、そのヒントを得たいと思って参加した。
- ・シニア層の海外におけるロングステイを支援する活動を行っているので、海外の現地の方との「つなぐ」のヒントになればと思い参加した。
- ・ボランティアの募集を行っているが、なかなか人が集まらない。また、支援者の発掘も難しい。PR不足と思っているが、今日はそのヒントを得たいと思って参加した。
- ・アートNPOのネットワークを企画している。その一助になればと思い参加した。また、このような場で顔を売ることで、自分がつなぎ役となって動きたいと思っている。
- ・県内であっても、地域が離れていると「つなぐ」ことは難しいと思う。どうしたら広域でつなぐことができるのか、ヒントをもらいに参加した。
- ・「つなぐ」ことがNPOを継続して運営することにつながるのではないかと。

- ・社会が新しい局面を迎えている中、様々な主体が自らの役割を果たすことで協働することが、局面打開につながると思う。そのためには、様々な主体がつながり、連携することが必要。
- ・まずは自分達が楽しむことが大切だと思う。失敗や反対はたくさんあるが、混沌としている世の中では、何はともあれやってみること。そうしないと「つながり」は生まれないと思う。

2 広域でつながる必要性・可能性・効果 について (付箋に書かれた内容)

- ・「つながる」きっかけは、出会いです。出会いを大切に育てたいです。
- ・「つながる」ことは、助け合いです。～人もくらしも支えあって成り立っています～
- ・自主事業の成立・継続には、 地域(住民)とのつながり 行政とのつながり 事業者(企業)とのつながりは不可欠。
- ・自分達の地域以外の人も手助けしたいので、活動する必要があるので、交流を深めていきたい。
- ・他を受け入れる力。
- ・つながることによって世間の広がり分かる。
- ・他の方法が分かって活用する事につながる。実践方法論が増。
- ・個人の希望よりも組織としてのニーズがあるかもしれないと思うため広くしてもらいたい。
- ・FUSION つながることで、新たな力が生れる。(触媒効果)
- ・つながる必要性...機能の補完、人材の補完、資金の補完、ノウハウの補完。
- ・影響力を大きくするため。NPO個々は微力でマイナーであるが束ねると大きくなる。
- ・まちの課題が分かる。その解決策も一緒に考えられる。
- ・事業活動の単一化、マンネリを防ぐ。新しい可能性を探れる。
- ・お互いに刺激になる(マンネリ化の防止)
- ・<つながる必要性> 1つのNPO、市民団体、商店街等では、その地域が必要とする機能を満たせないから。
- ・刺激を受け新たな発見がある。
- ・井の中のかわずにならない為。自分よがりにならないように！
- ・学習効果、新たな発見、成長が期待できる。
- ・つながりが広がるのが楽しい。
- ・情報交換、情報収集、活動の室の向上。
- ・「つながる」ことで、自分たちにはないヒントや力を得られます。
- ・狭い地域の中だけでは、活動しにくい(利用者が来にくい)テーマであるため(自殺防止=うつ病治す)。
- ・テーマが特殊なせいも、狭い地域内でボランティアがいない。

(ファシリテーターのコメント)

- ・「つながり」をテーマに検証や議論を行うのは、NPOならでは。これは、NPOにとって「つながり」が非常に重要だからではないか。
- ・意見の中では、外から刺激を受けることで次へのステップにつなげることができたり、足りない部分を補うことができる、「つながる」こと自体が楽しいなど、「つながり」に対するニーズが非常に高いことがわかる。

3 どうしたらつながるのか、その方法・戦略・普段心がけておくこと（付箋に書かれた内容）

- ・悩み相談をする。
- ・他の団体・事業に興味を持つこと。困ったことがあること。
- ・積極的に行政などに相談に行くこと。
- ・人との出会いをきっかけととらえ、何か一緒に出来ることを相談することも。
- ・NPOの会員に向けて、組織がかかえている課題を率直に知らせる。
- ・情報がない。どこにどんなものがあるか不明。つながる前にみつけてくる??
- ・NPO新聞の発行。
- ・骨身をおしませず情報を提供し続けること。
- ・自分(の団体)がつなぎ役となる意識を持つておく。
- ・<方法>とにかく、どこかの会合に出てみる。そうすると次へとつながっていく(人から人へ)。
- ・積極外交。
- ・どんな機会でも(このようなイベントを含めて)、出て行ってPRする。
- ・フェアに参加する。他の団体の内容を知る。
- ・とりあえず参加してみる。
- ・今回のようなイベントに積極的に参加する。
- ・きっかけ(今日のような)を多くもつ事。つながって成功した例を情報として分かち合うこと。
- ・今回のような意見交換会などをして、いろいろな活動を知り、人と出会う機会ができる。

(ファシリテーターのコメント)

- ・役所内の部門は相互に「強く」「多く」のつながりを持っている一方で、様々な制約などから、進んで市民の方とつながりを持つことに臆病になっている。
- ・役所の中にいろいろな情報があるのも事実。役所をうまく使うことが、NPOのつながりを広げることにもつながるのではないか。